

【取組分野・活動実績シート】		
1. 基本情報		
大学名・学部名・学科名	成城大学 経済学部 経営学科	
研究室 代表者名	境 新一	
研究室代表者の専門分野	経営学(経営管理, 組織間関係, 事業創造, アートプロデュース), 法学(民商法), 経営学を中心とする学際学	
研究学生の人数	学部生:33名(3年次11名、4年22名), 大学院生:1名(博士課程後期), 既卒業生:421名(学部生406名, 大学院生15名)	
活動可能エリア	全国。特に、東京都を含む首都圏, 関西圏, 東海, 甲信越, 東北 ほか	
関連ホームページ	名称	URL
	成城大学 境新一HP	https://www.seiio.ac.jp/education/faeco/business/faculty/shin-ichi-sakai/index.html
	Researchmap 研究者情報／科学技術振興機構	https://researchmap.jp/read0068769
	(株)ブレイン・コミュニケーション・コンサルティング	https://www.brain-c-consulting.com/
		
2. 地域課題解決に向けた取組分野		
● 観光	(「見る観光」から「地域に参加する観光」へ転換する仕組みを検討する。)	
● 移住・定住・関係人口	(移住を、観光から体験、関係人口の増加、2拠点居住、そして移住・定住につなげる方法を検討する。)	
● 農林水産業	(農業を生産面だけでなくとらえず、加工、飲食、観光、教育、健康、地域ブランド形成という農業の多機能化でとらえ、この思考に転換することを考える。)	
● 起業支援	(小規模な起業を多数発想して育てる。素人発想・玄人実行が重要。例えば、農業と別事業との融合、民泊、飲食、食品加工、地域交通、介護・生活支援、教育、ICT、空き家活用など。)	
● まちなか再生	(商店街活性化というより、「まちなかを地域生活プラットフォーム化」する。例えば、商店、カフェ、コワーキング、子育て、医療・福祉、行政、交流を組み合わせ全体活性化を図る。)	
● 集落再生	(「集落」を「人口」で維持するから、「機能」で維持するへ転換する。例えば、買い物支援、移動支援、雪かき、草刈り、空き家管理、防災、子育て支援などを地域内外の人材で分担する。)	
● 環境	(環境資源を地域経済・教育・観光・健康につなげる。例えば、森林、木材から建築、観光へ、農地、景観から観光、ブランド化へ、自然、教育から体験、関係人口増加へつなげる。)	
● その他	()	
3. 活動実績		
【活動実績①】 (1)東京都世田谷区成城 (2)活動内容: (a)ゼミ生が商店街の店舗取材と記事書きを担当し、HPに記事掲載。2010年～。 (b) 砧地域ご近所フォーラムに成城学園が後援者として協力。地域包括ケアの活動と紹介と発信 2012年～。 2019年度には当教員が実行委員長に就任。2025年度には成城大学が開催会場となり当教員は会場責任者となった。 (c) 世田谷区砧総合支所街づくり課 成城学園前駅周辺地区まちづくり準備会議に教員とゼミ生が参画。南口再開発 2024年～。 (3)活動による成果: 当教員が成城大学に着任した2007年以降、大学と行政、商店街、小田急電鉄(鉄道とOXスーパー)、医療・介護・福祉の事業者とが連携して価値共創をすることが定着した。論文としては、境新一「日本の商店街活性化に関する課題と展望―東京都世田谷区を中心にタウンマネジメントの視点からの考察」『成城大学経済研究』205号、13-54頁、2014年。同「創造性のあるまち・商店街づくりの追求: 下北沢と成城に関する70年間の変遷とフィールドワークを踏まえた提案」『成城大学経済研究』229号、230-73頁、2020年。		
【活動実績②】 (1)東京都世田谷区下北沢 (2)活動内容: 下北沢エリアマネジメント協議会等からの依頼に基づいて、境研究室(教員+ゼミ生)が世田谷区のまち、ならびに、商店街と連携してカレーフェスティバル開催期間(10月中の約2週間)にゴミ箱の社会実験等の調査分析を行った。大学・研究室と商店街は2008年～、特別講義、調査受託等を通して理事長らとのつながりがある。 (3)活動による成果: カレーフェスティバルの期間中(2025年10月9日～10月26日)に事前に異なる4か所に設置されたゴミ箱に捨てられたゴミを回収して内容を分類し、この社会実験に加えて、2026年2月、同協議会より新たに提供された早朝の路上ゴミ収集の資料にもとづき、あわせて調査分析の結果を分析報告。調査分析を通して、世田谷区のまちならびに商店街と連携して、エリアマネジメントの在り方ならびに実働の仕方を学生と教員が検証し、産学公連携をすすめる貴重な経験を得た。地域におけるゴミ箱の位置、ゴミの回収方法など、効率と費用の両面から十分に検討を重ねて、生活(衛生面、安全面)、商業、環境ほか集積された多様な情報を活用すべきであることが判明した。論文として、境新一「世田谷区のまちと成城大学の連携によるエリアマネジメントの検証」『成城教育』208号、50-57頁、2026年。		
【活動実績③】 (1)長野県上水内郡飯綱町 (2)活動内容: 飯綱町に代表される中山間地の町について、当ゼミ(教員+ゼミ生)として定期的なフィールドワークし、廃校活用、まち、商店街、病院、公共施設、交通インフラなどを調査し、課題と解決策を提案。個人としては2018年～。ゼミフィールドワークとしては2022年～。 (3)活動による成果: 2022年以来、毎年役場にて町長らに表敬訪問し、調査報告を行っている。経営学合同ゼミナール研究発表大会にて、境 新一研究室「エリアマネジメントに基づく地域の存在価値の向上～長野県飯綱町における主要拠点のトライアングル化と社会善充足の提案より～」を発表(2022 年8 月)。飯綱町役場でプレゼンテーションを実施(成城大学・経済学部ニュース 最優秀賞受賞)。論文としては、境新一「拠点連携に基づくエリアマネジメント&プロデュースによる地域創生の検証: 長野県飯綱町における存在価値向上の提案を通して」『成城大学経済研究(木村周市朗名誉教授古希記念号)』、239 号、47-82頁、2023年。同「長野県飯綱町における地域創造と文化創造の未来: りんごを原点とするアートとビジネスの越境とその検証」『昭和音楽大学アートマネジメント研究所』音楽芸術運営研究』第19号、5-26頁。2026年。		
4. 研究室卒業生の地方での活動状況		
卒業生は全国に所在しているものの、首都圏、関西圏に拠点のある者が多い。		
5. 希望する活動内容		
大学・教員紹介での専門分野、自社・事業分野に記載のある通りである。以下を参照。 ◎研究内容: 特に、3・4・5・6 1. 企業紐帯と企業業績(企業価値)との関係についての研究[提携,M&A,ネットワーク構築] 2. 法と経営学についての研究[リスクとブランドのマネジメント] 3. 公益の概念および事業に関する研究/実践[経営哲学,公益事業と活動] 4. まちづくり/商店街活性化の研究/実践 5. 農商工連携に関する研究&実践, 再生可能エネルギー, エコロジー住宅の研究 6. アートとプロデュース・マネジメントに関する研究/実践, 新たな発想法と事業創造の提案[価値, 経営, 事業の創造] ◎会社事業: 地方創生・地域活性化、伴走支援。上記の観光、移住・定住・関係人口、農林水産業、起業支援、まちなか再生、集落再生、環境に関わる課題ならびにその融合課題。		